

校名：北海道教育大学附属函館小学校

所在地：〒041-0806 北海道函館市美原 3-48-6

電話番号：0138-46-2235

記載日：平成 28 年 5 月 20 日

記載者：新 田 英 樹

記載者役職：主幹教諭

貴校の校風、おおまかな特色について：

子供、教職員、保護者が常に「子供一人一人が期待に胸をふくらませて登校し、やり遂げた喜びに心をおどらせて下校する附属小学校」を目指している。

そのために、次の重点を設定している。

- ・子供が目標の実現に向け、主体的、創造的に活動する 「生き生きとした学校」
- ・教職員が切磋琢磨し、教育活動や研究活動に励む 「前進する学校」
- ・保護者や地域社会との緊密な連携が図られている 「つながる学校」
- ・子供も教職員も充実感や存在感を実感できる 「温かな学校」
- ・子供の学びを支える豊かな学習環境のある 「整った学校」
- ・豊かな人間性をはぐくむ 「伝統と校風が育っている学校」

貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 追跡調査は行っていない。
- ② 追跡調査は行っていないが、卒業生である保護者の話から各界で活躍しているという情報は得ている。
- ③ 函館市内及び近郊及び他地域で、医師になったり、会社経営などを行ったりしている卒業生が多い。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 追跡調査は行っていない。
- ② 追跡調査は行っていないが、近年の状況は概ね把握している。
- ③ 北海道教育庁各教育局指導主事、道南市町学校の管理職として、活躍している。また、一般教員として転出した者は各校において研究主任や学校経営の中心となるポストを担っている。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

1 文部科学省教育研究開発事業「小学校英語科」研究開発校（平成 25 年度～28 年度）

1 年次…これまで実施してきた各北海道教育大学附属小・中学校の実践例収集，分析

2 年次…中学校スパイラルタイム，小学校英語科のカリキュラム作成

3 年次…カリキュラム試行

4 年次…カリキュラムの実施及び完成（学習指導要領に相当する資料）



2 ICT を活用した小中連携プロジェクト（平成 28 年度）

【目的】

○ 現在，函館地区小学校，中学校両校は，研究主題に「アクティブ・ラーニングの実践」を掲げ，研究を推し進めている。このアクティブ・ラーニングを推進する上で，ICT 機器の活用はとても重要な事項の一つである。現在，中学校においては生徒一人一人に ICT 機器が配付され，活用が図られている。小学校においては，ICT 機器の台数に限りがあるとともに，破損も増えてきている状況である。そこで，小中連携の一つの窓口として，小学校段階でのより多くの ICT 機器活用の機会を設けることを目的と考えた。

【取組内容】

- ICT 機器活用を図る授業構築，実践，検証
- 作成物，資料等の情報共有を図るための ICT 機器の活用



3 JICA集団研修「初等理数科教授法（A）」研修員の受入

【目的】

- 本校の理数科授業を通して、参加研修員が「綿密な教材開発と授業検討から児童の学習意欲を促す理数科授業が構築でき、それを学習指導案として表現できるようになる」ことを目指す一助とする。
- 本校児童が、外国の方々との交流を通して、異なる言語や文化に対する興味・関心をひろげ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする心情をはぐくむ。



【取組内容】

- 理数科授業構築，学習指導案作成
- 本校職員による授業の観察及び事後討議
- 研修員による授業公開及び事後討議
- 日本文化研修及び体験（市内施設見学，餅つき）

4 北海道教育委員会との授業実践交流事業

【目的】

- 北海道教育委員会との交流事業を通して、教育の実際を公開するとともに、他の公立学校の教育研究に寄与する。

【取組内容】

- 本校職員による公立小学校での授業作りへの参加及び協議
- 本校職員による公立小学校の校内研修への参加による合同研修
- 本校職員による公立小学校への出前授業

5 PTA 主催事業「桐の子祭り」

【目的】

- 児童，保護者，教員間の絆を深めるとともに、三者による楽しい時間を共有する。

【取組内容】

- 各学年による出店
- 親子レクリエーション



地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

函館市には小中学校合わせて40を超える教科等との研究団体がある。本校職員は例えば、教科の他に学校教務研究会など複数の団体へ所属している者が多い。また、その団体の中では、研究部長や幹事長を請け負ったり、各教科等の北海道大会においては公開授業者や研究発表者を行ったりするなど中心的な役割を担っている。

これらの活動を本校職員が行うことで、地域のモデル校として認められているとともに、公立校教員の指導力向上にも寄与していると考えます。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

函館地区附属学校園は同敷地内に存在するため、交流や連携がしやすいということも利点の一つに挙げられる。例年2月には、小学校を会場とし、函館地区附属学校園が主催し、北海道教育委員会や函館市教育委員会の後援を得て、授業力向上セミナーを開催している。その中で、アクティブ・ラーニングの実践授業公開や小中連携に関わる実践事例を紹介した。参会者からは高評価をいただいた。

このことや先述の先導的な取組などから、本校及び教職員は、児童、保護者はもとより、地域に対して多大な好影響を及ぼしているとともになくてはならない存在であると考えられる。また、「道南の教育を担う者」の養成校である北海道教育大学函館校の存在も不可欠であり、その附属学校である本校及び教職員はその意義もくみつつ、また使命感を胸に日々精進を重ねている。